

## 修 察 記 研 視 察

### 島根県更生保護会と 松江刑務所を訪ねて

研修視察参加者 小倉郁子

今年には保護司会出雲支部の研修として、近隣施設の視察研修が実施されることになりました。六月二十五日、坂本支部長を先頭に会員、更生保護女性会員十九名で、島根更生保護会と松江刑務所を視察しました。

最初の訪問先の島根更生保護会までは、ちょうど一時間で到着しました。この施設については以前から知っている会員も多く、また全面改築については全員承知していることなので、建物や施設内の環境については大体想像していた通りでした。中に入ると施設というより普通の



島根更生保護会本館

家庭に近いような玄関で、上りかまちは色とりどりのスリッパが並べられてありました。何人かの方々が出迎えてくださり、「あなた方がこの施設の最後の視察訪問者です。」という言葉に歓迎の気持ちが感じられました。理事長さんや施設長さんの挨拶では、この施設の概要に合わせ、この度の改築について話されました。

島根更生保護会は、もともと明治四十四年に民間有志によって創設された民間の団体です。それ以来丸一世紀にわたり、社会に復帰しても帰る場を失った人たちの立ち直りを支援する事業が継続されてきました。現在の施設は昭和四十一年に建築されたもので老朽化が進み、入寮した人の社会への再スタートを支援するには支障をきたすようになりまし

た。そこで平成二十四年度に全面改築を実施することに決定したそうです。九月には工事が始まり、来年三月には竣工の予定で、新しくなれば収容率も増えるそうです。

主任補導員の方の説明によれば、



松江刑務所

入寮した人は集団生活の中で、原則六か月の間自立更生を目指して努力し、それから社会へ再出発するそうです。しかし、ここで保護される人たちが真に更生を図るには、生活の場である地域社会の中で社会復帰ができるかどうかにかかっています。したがって地域社会の人々の温かい理解と援助がどうしても必要になり、この施設では奉仕活動や行事を通して、町内会やその他の社会の人たちとの交流を大切に活動が組まれていました。

施設を見学した後、休憩をとり、松江刑務所へ向かいました。

こちらも現在工事中で、完成までにはあと十年余りかかるそうです。総務の方の説明によれば、この収容対象者はB級で、二十歳以上の犯

罪傾向の進んでいる男子受刑者だそうです。したがって年齢も高く、刑務所に入った回数もどうしても多くなります。中には酒、薬物、暴力団等の問題を抱えている人も珍しくなく、生活すべてにおいて社会復帰のための指導が実施されているそうです。

最近、刑務所を出たばかりの人の更生が社会問題になっていきます。「事件を起こせばまた刑務所に入れると思った。」という犯罪を犯した人の言葉に、ただ啞然とした人は少なくなかったと思います。国を挙げて改善更生のための事業がなされているにもかかわらず、再犯率は毎年上昇を続けているそうです。ということは、一度犯罪を犯すと、そこから社会復帰することは容易ではない、ということになります。地域社会の中で自立更生を目指す人たちと同じ社会に生きる私たち、とくに保護司としては、身近な地域の中で共に暮らせるように支援することが、最も求められていると思います。

「地域社会の理解、援助なしには、安全、安心な社会は作れない。」といわれる更生保護の事業について、改めて考えさせられた今年の視察研修でした。